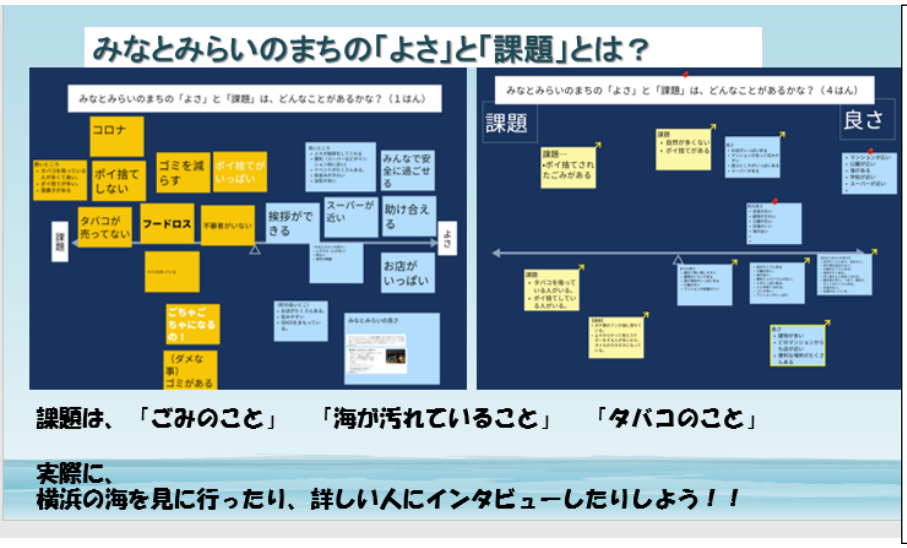
4年１組
「みんなで守ろう！　世界の海と生き物を」



学級でみなとみらいのまちの　よさ　と　課題　を出し合ってみました。まちの「よさ」は、どのグループもたくさん出てきました。でも、課題は、どのグループでも

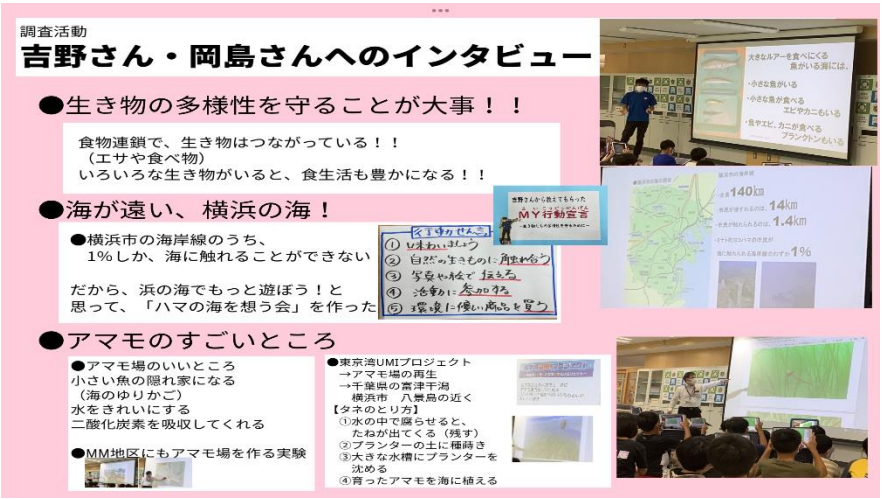
「ごみのこと」

「海が汚れていること」

が出てきました。本当にごみが多いのでしょうか。本当に海が汚れているのでしょうか。調べてみることにしました。

わたしたちは、３年生でお世話になった「ハマの海を思う会の吉野さん」や、国土交通省の岡島さんに、海のことを教えてもらうことにしました。

お話を聞く中で、生き物の多様性を守ることが大事なことや、海岸線のうち、１％しか海に触れる場所がなく、横浜の海は遠いことなどを教えてもらいました。



わたしたちは、さっそく、臨港パークの潮入りの池に行って、海の様子を観察してみました。

すると、私たちの予想通り、潮入りの池は、たくさんのごみが浮いていました。

多かったのは、おかしの袋やカップめんなどのプラスチックごみでした。コンビニで買ったおべんとうの容器が、ふくろごと捨てられてもいました。他にも、ペットボトルやアルミ缶もありました。注射器まであったのは、びっくりです。

アクション2（生き物に触れ合う）

潮入りの池　生き物調査に出かけよう①

砂浜や海の中に入って調べてみると、スジエビやカニなどの生き物が、意外に多くいることに気付きました。小さな魚も泳いでいました。
捕まえた生き物は、学校の海水槽に入れて、観察しました。

砂浜や海の中に入って調べてみると、スジエビやカニなどの生き物が、意外に多くいることに気付きました。小さな魚も泳いでいました。

ほとんどの人は、目の前に広がる海に入る機会はあまりありませんでした。「海の水は汚れている」「生き物は住んでいないのでは」と思っていたので、たくさん生き物がいたので、驚きました。

アクション2（生き物に触れ合う）

潮入りの池　生き物調査に出かけよう②

吉野さんたち（ハマの海を想う会）にハゼ釣りを教えてもらいました。多い人は、10匹以上を釣りあげました。中には、クロダイの子どもが釣った人も。
この小さな潮入りの池にも、生き物がたくさんいることに気付きました。

潮の満ち引きに合わせて、干潮と満潮とその中間と観察に行きました。潮の高さによって、捕まえられた生き物の種類も量も、違いました。満潮の時に、ハマの海を想う会の吉野さんと一緒に釣りをしました。家から持ってきた釣り竿で、ボラとクロダイの子どもを釣った子もいました。

横浜の海岸線１４０ｋｍのうち、海に触れ合えるのは、たった１％。その１％の臨港パークは、海にふれ合える大切な場所だと知りました。

私たちは話し合いを進め、「もっと多くの人に、潮入りの池のことを伝えていく」ことが大切だと考えました。そこで、校内には「みなとみらいを語る会」、校外では東京湾大感謝祭やアマモメッセンジャーなどのイベントに参加して、広く発信することにしました。

校内では私たちが捕まえてきた**ハゼやボラ、イシダイ、スジエビなどは、学校の水槽で飼育**して、紹介をしました。それから、**アマモの種の植え付け体験**を一緒にしてもらいました。見に来たお客さんからは、

「生き物がたくさんいることに驚いた」

「ハゼやクロダイをまぢかで、じっくりみることができてよかった」

と言われました。

潮入りの池の砂を持ってきて、**マイクロプラスチックなどのごみ採集体験**をしたり海ごみの種類や量を伝えたりして、私たちが考える海のごみを減らす取組を伝えました。見に来たお客さんからは、

「ごみを減らすために努力しなきゃいけない」

「自分から気を付けて行かなきゃいけない」

との感想をもらいました。

東京湾大感謝祭やアマモメッセンジャーなどのイベントに参加して、活動したことを多くの人に伝えられました。３ 月には、京急ミュージアムで活動報告をする予定です。この活動を通して、もっと多くの人が、目の前の海について関心をもってほしいと思っています。

そして、生き物がたくさん住んでいる海ごみがもっと少なくなったり、生き物が住みやすくなったりしていくことで、横浜の海だけでなく、世界の海が生き物にとって住みやすいものになると思います。それが、私たちの住む「みなとみらいのまち」が、もっと住みやすい街になっていくことだと思います。

4年2組

「リメイク工房4の2」

～私たちの活動はここから始まりました！～

　社会科の学習からごみ問題を知りました。自分たちにできることは何かを考えたときに、「布を使って何かできないかな。」というアイデアが出てきました。そのアイデアが出た１週間後には、手作りの飾りがついた髪飾りを持ってくる子がいて、「自分たちでもできそうだ！」と布のアップサイクルをしていくことが決まりました。

～森さんに教えてもらった技法「押絵」～

　いよいよ、古布のアップサイクルを始めてみたものの、裁縫が未経験な子どもたちは、雑巾を縫うのも一苦労でした。どうにか自分たちで縫えるようにならないか、裁縫を教えてくれる人がいてくれたらと思うようになりました。そこで、横浜市で着物のリメイクをされている森　洋子さんと出会い、裁縫を教えていただきました。初めは巾着などを教えてもらっていましたが、「針も糸も使わない技法があるのだけれど、子どもたちにとってもいい技法だと思う。」と森さんから提案いただき、針も糸も使わない「押絵」という技法を教えていただくことになりました。

～「押絵」を知って活動の幅が一気に広がった！～

　「押絵」は角をしっかり作って、端の布を処理するのが難しいですが、作り方自体は簡単で、子どもたちも夢中で取り組みました。そんな中、神奈川大学の学園祭に参加する機会がもらえ、どうすれば楽しく体験してもらえるか考えました。そして、正三角形を作って敷き詰めていろいろな形を作ってもらうことにしました。

～本牧南小学校と交流～

この活動を通して、本牧南小学校の６年生と交流する機会をいただきました。本牧南小学校は、スポーツを通して SDGｓを達成しようとしていることを知りました。最後の振り返りでは、「４年２組とは取り組んでいることは全く違うけど、ＳＤＧｓを達成したいと思う気持ちは一緒なんだ。」と発表するなど、向かう気持ちが同じことに気付くことができました。

～神奈川大学の学園祭に参加！～

神奈川大学の学園祭では、自分たちが主体的に働きかけないと、お客さんが来てくれなかったり、興味をもってくれなかったりすることが分かり、ドキドキしながらも積極的に声をかけながら、ワークショップを開くことができました。この経験は子どもたちにとってもとても大きな出来事で、伝えることや伝わることの大切さを実感することができました。

～「みな」と「みらい」を語る会～

語る会では、楽しくごみを減らす取り組みとして布のアップサイクルをしていることを伝えることができました。たくさんの保護者、児童に参加してもらい、子どもたちにとっても充実した２日間になりました。また、今後の活動をどうしていくか、保護者や児童からもらったアドバイスをもとに考えるようになりました。

～はまっこ未来カンパニープロジェクトの発表、そしてこれから～

１年間の取り組みを市庁舎で発表しました。森さんとの出会いから、たくさんの人と関わりながら活動することで、「相手に少しでも興味をもってもらいたい。」をいう思いが生まれました。発表のときには、ほかの学校から「やってみたい。」「楽しく続けられることが素晴らしいね。」と感想をもらうことができました。子どもたちもこの活動に対する達成感を味わっていました。

そして、森さんと最後の活動を終え、４年生最後の日まで、作品作りを続けました。結局、布を余らしてしまったことは、子どもたちにとっても心残りだったようでした。しかし、自分たちが夢中で取り組んだこと、自分たちができることは案外たくさんあることに気付けたことは、この活動を通して得た大きな学びだと思います。